

# 統計スポット情報

No. 159

21. 9. 4

福井県総合政策部政策統計課

## — 統計から見た福井県のコンビニ事情 —



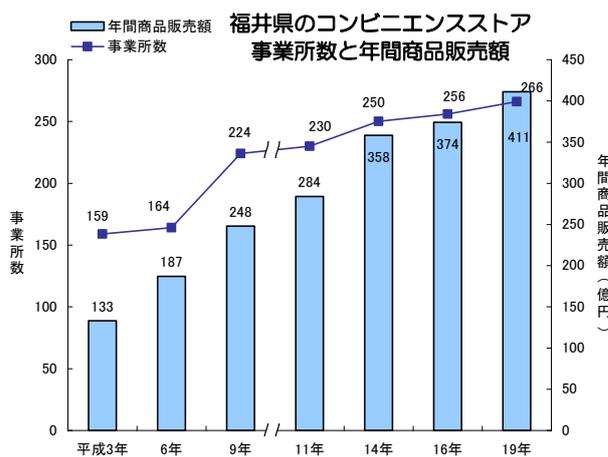
「こんなところにお店あったけ?…」 「前までここにお店があったのに…」  
そんな経験はありませんか? 小売業界は常に変動しています。  
今回は小売業界の中でも、皆さんの最も身近にあるコンビニエンスストアの動向について探ってみました。

### 【コンビニエンスストアの推移】

まず、コンビニエンスストアについて、どのような状況にあるか見てみましょう。

商業統計調査によると、福井県の小売業全体では、事業所数は年々減少し、年間商品販売額も平成14年からほぼ横ばい状態となっていますが、コンビニエンスストアは事業所数、年間商品販売額とも着実に成長しています。なお、福井県の平成19年の人口1万人当たりのコンビニエンスストアの数※は3.26(全国25位)店舗であり、全国平均の3.42店舗と比べるとやや店舗密度は低いようです。(1位:北海道 4.57店舗、47位:和歌山県 2.10店舗)

※平成19年商業統計調査のコンビニエンスストア店舗数を推計人口(総務省 H19.10.1 現在)で除して算出



(注) 平成11年調査において調査対象事業所が精査されたため、平成11年の数値と平成9年以前の数値が単純に比較できなくなっています。

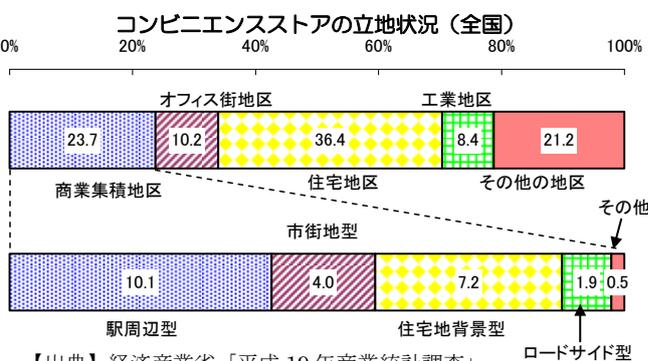
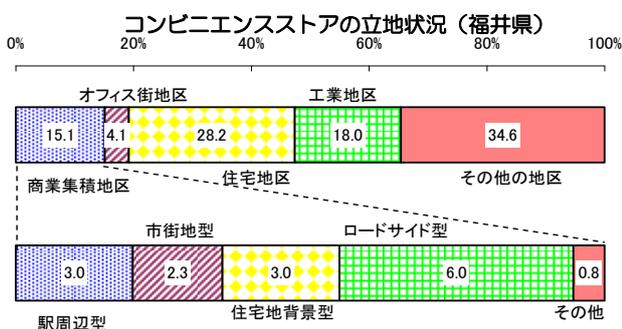
【出典】経済産業省「商業統計調査」

### 【コンビニエンスストアの立地の状況】

では、コンビニエンスストアはどのような地域に多いのでしょうか。

商業統計調査からコンビニエンスストアの立地状況をみると、福井県では工業地区、その他の地区など郊外の立地が多くなっていますが、全国では商業集積地区、オフィス街地区など市街地の立地が多くなっています。また、商業集積地区の中でも、福井県ではロードサイド型の割合が高くなっています。

福井県はよく「車社会」と言われますが、大型店だけでなく、コンビニエンスストアの立地にもその影響が強く表れているようです。



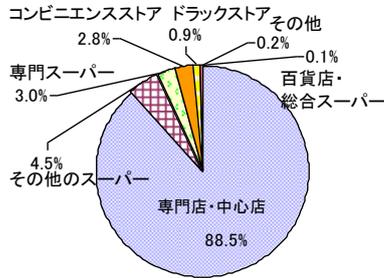
【出典】経済産業省「平成19年商業統計調査」

## 【福井県の小売業全体の動き】

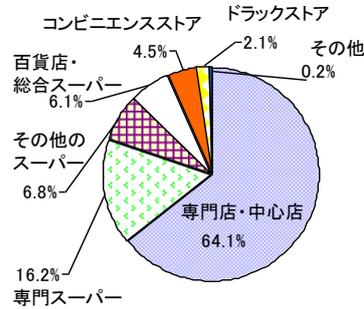
それでは、福井県の小売業全体の動きはどうなっているのでしょうか？

事業所数、年間商品販売額を指数化して年次推移を見ると、福井県の小売事業所数の約9割を占める専門店・中心店や大型小売店である百貨店・総合スーパー、専門スーパーが、事業所数、年間商品販売額ともに減少する中、コンビニエンスストアは事業所数、年間商品販売額ともに増加しています。また、ドラッグストアの事業所数は横ばい状態ですが、年間商品販売額は大きく増加しています。

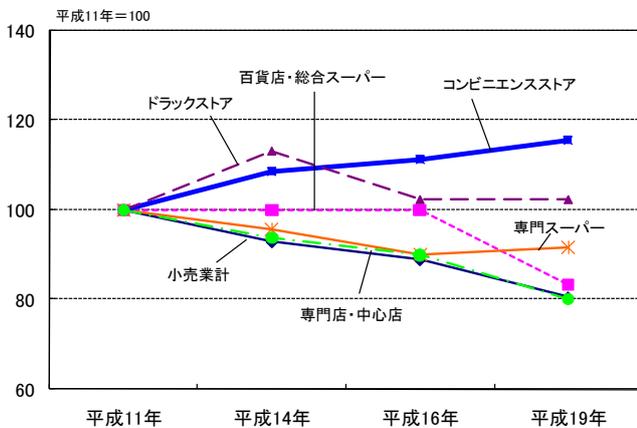
福井県の小売業事業所数の構成比(平成19年)



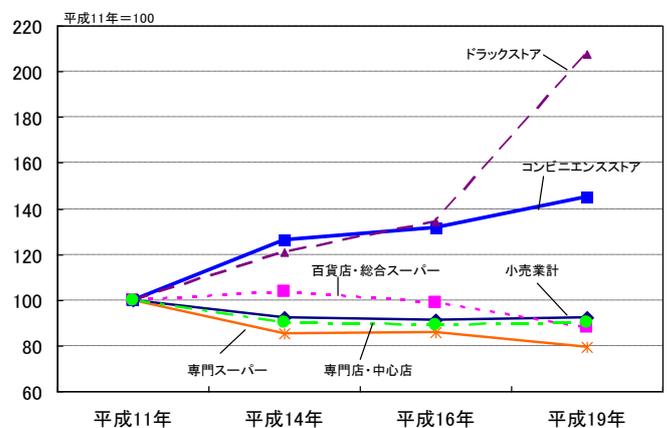
福井県の小売業年間商品販売額の構成比(平成19年)



指数で見た福井県小売業の事業所数の推移



指数で見た福井県小売業の年間商品販売額の推移



【出典】経済産業省「商業統計調査」

## 【コンビニエンスストアチェーンの勢力圏】

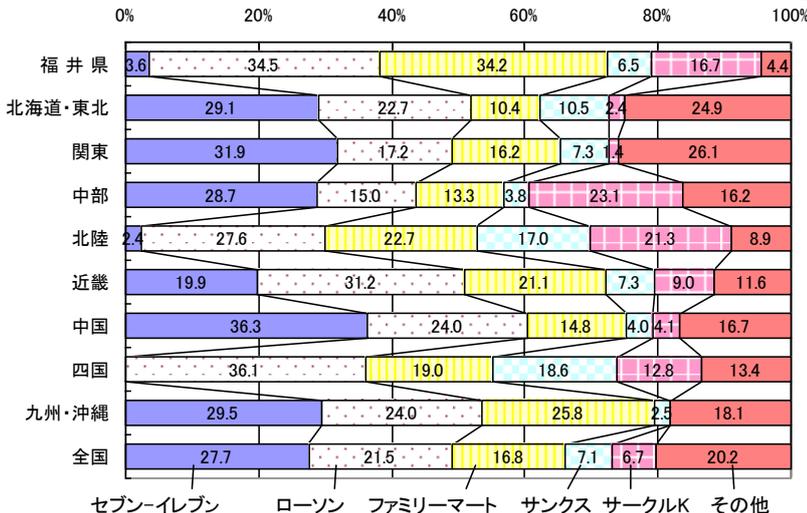


最後に、コンビニエンスストアチェーンは全国でどのように展開しているのか見てみましょう。福井県のコンビニエンスストアは、ローソンとファミリーマートがきつ抗しており、2社で全体の7割近くを占めています。続いて、サークルKとサンクスで2割を占めるという図式になっており、福井県では以上の4チェーンでほとんどの店舗を占めています。

全国で最も店舗数が多いセブン・イレブンが最近北陸に進出しましたが、北陸圏で2.4%、福井県では3.6%にとどまっています。

コンビニエンスストアチェーン別店舗数の構成比  
(全国主要コンビニエンスストア15社)

(平成21年6月末現在)



【出典】(株)商業界「月刊コンビニ」2009年8月号 P131のデータを元に作成